

氏名：高柳 妙子

実施国：オーストラリア

調査研究

(1) 計画通りに実施されましたか？運営面・経理面での変更点はありましたか？

2010 年 3 月にシドニー大学大学院教育学部博士課程に進学する計画で渡航準備を進めていた。当初の計画通りに実施され、同博士課程に入学し、現在第一学年後期に所属する。博士課程 1 学年度は、研究計画(英語 10,000 字)を提出することが課題とされているが、2011 年 3 月 31 日締め切りまでに提出すべく順調に進めている。

(2) 実施の結果（良かった点、反省点を含めて）

当初の計画通りに入学し、現在に至るまで特に大きな問題もなく所属している。博士課程初年度は、研究計画作成のため、文献レビューと調査方法を指導教官のアドバイスの元進めている。本格的な現地調査に入るのは来年度になるため、今年度は特に目立って大きな結果が現れているわけではないが、研究計画作成は、順調に進んでいるため実際の現地調査開始を心待ちにしている。

(3) 異国の参加者同士または本人が相互理解を深めたと確信できた場面は？

または実施事業に対する一般の反響は？「協力活動」「調査研究」「海外での研修」

シドニー大学大学院博士課程においては、個人で自立して指導教官の元、研究を進めることが期待されているため、基本的に同級生どおしで何かを実施する、あるいは、歓談するといった機会があまりないのが現実である。そういった限られた状況の中で、オーストラリア人である指導教官からは、「自分の考えや気持ちを恥ずかしがらずに伝えること」というのを学んでいる。日本人（特に女性）は、社会における男女格差、年功序列の社会制度の中から、どうしても自分の意見を述べることを拒んでしまう傾向にある。しかし、シドニーに来て、指導教官と意見交換をするうちに、少しずつ自分の意見を率直に述べることができるようになってきたように感じる。